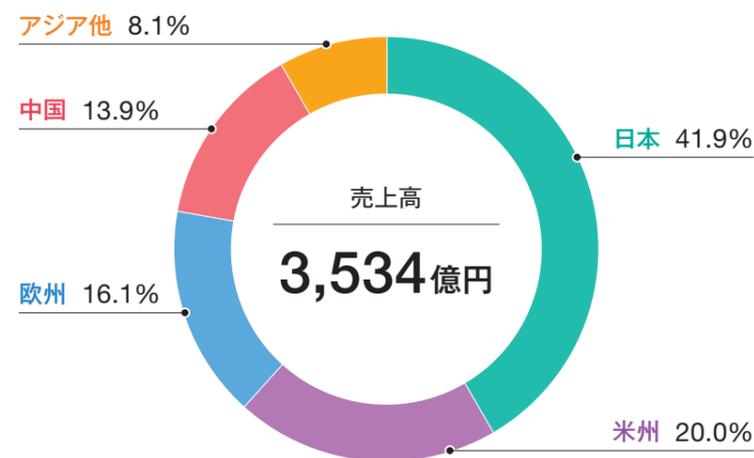


## 事業レビュー 地域別の概況

THKは成長戦略においてグローバル展開を標榜する中、日本・米州・欧州・アジアの4極において「需要地における製販一体体制」を構築しています。2018年12月期は、グローバルで「Omni THK」を展開し、お客様が「いつでも」「どこでも」「簡単に」製品を購入できる仕組みづくりを推進しました。生産面では、産業機器・輸送機器の両事業における増産投資に加え、自動化・ロボット化やIoTを活用した取り組みによる生産性の向上により、リードタイムの短縮化を図りました。

2019年12月期も引き続き各地域でOmni THKの機能拡張をはじめとする販売体制の強化に加え、柔軟かつ強固な生産体制の構築を加速していきます。間接部門を含めた業務フローでは、システム化を推進することによりお客様へ迅速に製品とサービスをお届けするとともに、グループ全体の生産性向上を図ります。



### 日本

#### 事業環境と業績概要

日本では、アジア向けを中心に輸出の鈍化が続いた一方、国内の設備投資は底堅く推移しました。当社グループでは期の前半において、エレクトロニクス関連や一般機械向け、工作機械向けなど、全般的に好調に推移していた需要を着実に売上高につなげた結果、売上高は1,479億円となりました。

#### 2018年12月期の取り組み

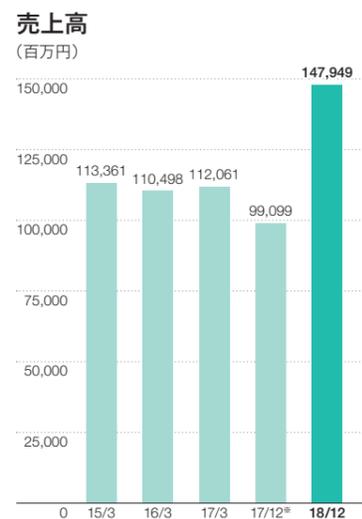
##### 販売面

中長期的な需要の拡大が見込まれる中、Omni THKによる各種新サービスを展開しました。2018年10月にはNTTドコモ・シスコシステムズと連携し、LMガイドをは

じめとする重要要素部品の予兆検知サービスである「OMNIedge」の商用化の準備を開始しました。ECサイト上の短期対応サービスである「Fast Delivery」では、ASEAN・中国・ブラジルに続き、日本の一部でもサービスを開始しました。

##### 生産面

2018年12月に山形工場における増築新工場の一部が完成し、輸送機器のメイン工場の一つであるTHKリズム九州でも新規案件に向けた増築を開始しました。生産性向上に向けた取り組みでは、自動化・ロボット化を推進するとともにイーグルシステムをはじめとするIoTを活用した各種施策を展開しました。



※3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

### JAPAN

### 米州

#### 事業環境と業績概要

米州では、好調な個人消費にけん引され、内需主導の堅調な経済成長が続きました。そのような中、当社グループでは、エレクトロニクス関連や工作機械向けなどにおいて堅調に推移した需要を着実に売上高につなげた結果、売上高は705億円となりました。

#### 2018年12月期の取り組み

##### 販売面

既存顧客の深耕や競合奪取によりシェア拡大を図るとともにキャラバンカーを活用した展示会の開催や2018年9月よりブラジルで展開を開始したOmni THKなどにより幅広い顧客への効率的な営業活動

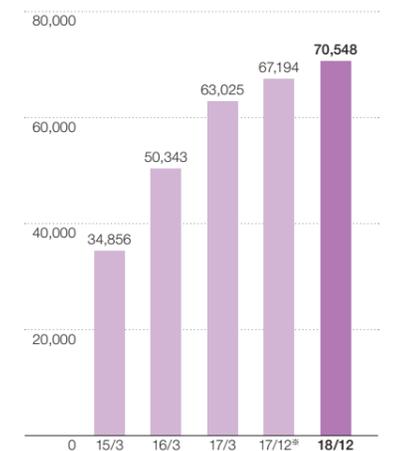
を推進しました。さらに、医療機器や航空機、ロボット関連をはじめとする新規分野における営業活動を積極化し、新たな需要の創出を図りました。

##### 生産面

業界で唯一、北米に生産拠点を持つ強みを最大限に活かし、市場ニーズに合致した生産活動を進めるとともに、工程間の情報共通化や自動化をはじめとする機械稼働率の向上などにより製造リードタイムの短縮と生産性向上を図りました。輸送機器ではTHK RHYTHM MEXICANAにおける増築が完了した一方、THK RHYTHM NORTH AMERICAにおいて増築を開始しました。

### THE AMERICAS

#### 売上高 (百万円)



※3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

### 欧州

#### 事業環境と業績概要

欧州では、堅調な設備投資を背景に緩やかな経済成長が続きました。当社グループにおいては、一般機械向けや工作機械向けなど、全般的に堅調に推移した需要を着実に売上高につなげた結果、売上高は569億円となりました。

#### 2018年12月期の取り組み

##### 販売面

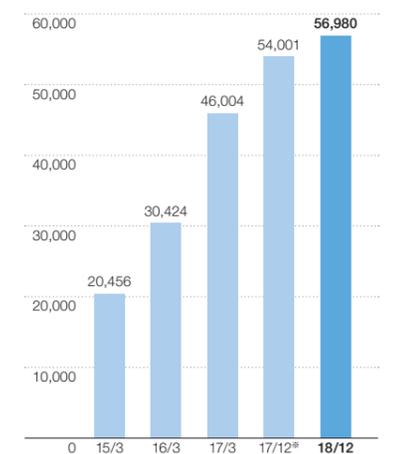
ターゲットを絞った営業活動により新規案件の獲得を図りました。加えて、展示会

における見込み顧客の獲得強化など、幅広い顧客向けの販売拡大に向けた各種取り組みを積極化するとともに、社内業務フローにおけるITツールの活用により、お客様への提供価値の向上を推進しました。

##### 生産面

生産工程の自動化・ロボット化に加え、人員配置調整などにより出来高と生産性の向上を図りました。加えて、ITツールの活用により、さらなる工程改善を実施し、生産性の向上を推進しました。

#### 売上高 (百万円)



※3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

### EUROPE

## 中国

## CHINA

### 事業環境と業績概要

中国では、期の後半にかけて米中貿易戦争の影響により設備投資に幅広く調整の動きが見られた一方、当社グループにおいては、それまで好調に推移していたエレクトロニクス関連、自動化・ロボット化関連などにおける需要を着実に取り込み売上高につなげました。その結果、売上高は492億円となりました。

### 2018年12月期の取り組み

#### 販売面

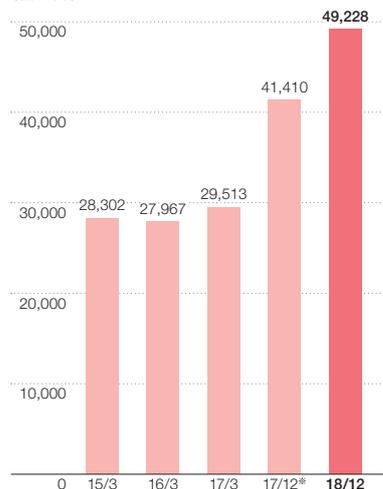
販売網の拡充と新規分野・新規顧客の開拓を進める中、2018年5月よりOmni

THKの中国向けサービスを開始しました。セミオーダー短納期品の市場投入に加え、販売店約60社にECサイト上のアカウントを付与するなど、幅広い顧客向けの効率的な販売を強化しました。

#### 生産面

増産設備の早期立ち上げや既存設備の有効利用により生産能力を強化するとともに、自動化・ロボット化やIoTを活用したデータ集計により生産性の向上を図りました。輸送機器では、THKリズム常州における増築を開始し、トップライン拡大に向けた準備を着実に進めました。

### 売上高 (百万円)



※3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

## アジア他

## ASIA AND OTHER

### 事業環境と業績概要

期の後半にかけて米中貿易戦争の影響によりアジア経済でも減速感が広がりました。一方、インドやASEANを中心にそれまで好調に推移していた需要を着実に売上高につなげた結果、売上高は287億円となりました。

### 2018年12月期の取り組み

#### 販売面

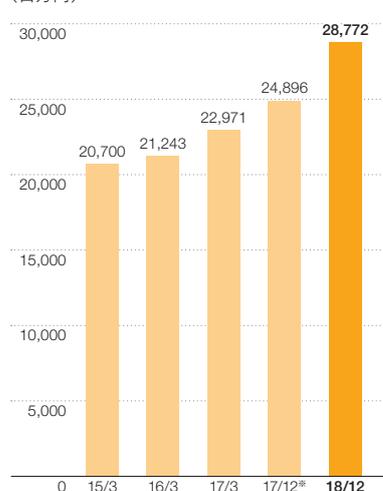
台湾では、既存顧客の深耕に加え、流通販売網の拡充や顧客サービス強化などによる幅広い顧客への販売を強化するとともに、新規分野において免震装置の需

要創出を図りました。ASEANでは引き続きOmni THKの展開を強化するとともに、幅広い地域で代理店や顧客向けの技術セミナーを開催し、THK製品の優位性を訴求しました。

#### 生産面

ベトナムでは2018年11月にTHK MANUFACTURING OF VIETNAMの増築新工場が完成し、ミニチュアLMガイドの増産を開始しました。中長期的な需要拡大が見込まれるインドでは2020年1月の新工場稼働に向けて第一期投資を開始しました。

### 売上高 (百万円)



※3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。